

編集後記

『日中語彙研究』第11号には、論文5編、特別寄稿、辞典史、新語録、動向各1編、合計9編の玉稿を掲載することができた。2021年度も感染症が収束せず、研究活動には支障があったが、寄稿して下さった方々にはご尽力いただき、本誌も無事刊行の運びとなった。

本号では、辞書の編纂に関する玉稿を2編掲載した。依藤醇氏は『中日辞典』(小学館)の初版から第3版まで編纂に携わった方である。編集委員会から原稿をお願いし、「二つの「中日辞典」」をお寄せいただいた。今泉潤太郎氏は『日中語彙研究』創刊号から『中日大辞典』の編纂史を連載しており(「資料による中日大辞典編纂所の歴史」)、本号で7回目となる。

論文5編の内容は多岐にわたり、中国人研究者が日本語で執筆しているものもある。日本語と中国語の両方に関わる論文は3本あり、それは張建華氏「中国人中上級日本語学習者コーパスによる漢語サ変動詞の習得研究」、施暉・聶根鳳両氏合作の「「性向語彙」における「接辞」についての比較研究—一日中の「大」/“大”を中心に—」、戸谷将義氏「中国語における日本語「手続」の借用過程」である。中国語について詳細に論じる論文は2本あり、それは楊沛・曹炜両氏合作の「从认知关联看方位构式成语的嵌入成分搭配限制及其位置顺序—以含方位词“东”“西”的方位构式成语为例」(著者名・タイトルは原文表記の通り)、謝平氏「現代中国語場面文の語順について—述語の意味特徴を中心に—」である。ご興味のある論文があれば、ご一読をお勧めしたい。

連載としては趙蔚青氏「2021年中国の新語流行語」、施暉氏「中国における日中語彙対照研究の動向2021」の2編を今号に掲載した。感染症の状況が好転しない今、中国に赴かなくても中国語の最新状況を知ることができ、平常時以上に有益である。

以上の9編が日中語彙対照研究や日中語学教育および関連領域の参考になれば幸甚である。
(編集委員会)

『日中語彙研究』第11号

2022年3月30日発行

編集・発行 愛知大学中日大辞典編纂所

名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777

Tel. 052-564-6122 Fax. 052-564-6222

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>

組版 株式会社あるむ
